

(撮影・斉藤卓也)

# KOMAZAWA 駒澤大学1部 × 1部 WASEDA 早稲田大学

## 強い気持ちは何処へ… シュートで終われず引き分け

影を潜めた強い気持ち

「気持ちという部分を出せなかった、一言で言ったら情けない試合だった。試合終了後、主将廣井の口から飛び出した第一声だ。廣井が口にした「気持ち」という言葉。秋田監督が常々選手たちに事あることに口にしている言葉である。昨シーズン、終了間際の逆転劇、数的不利と逆境を跳ね返して掴み取ったインカレのタイトル。駒大が数々のタイトルを手繰り寄せてきたのもこの逆境にも負けない「気持ちの強さ」がもたらしたものだ。この駒大の真骨頂でもある「強い気持ち」が出せなかったことに主将廣井は悔恨した。

この日の相手は去年2部リーグ優勝を果たして1部昇格を果たした早大。昇格組とはいえず去年まで2部のチームとは思えない逸脱したメンバーが名を揃える。さらにその早大相手に去年駒大は2敗。駒大の目標の「3冠獲得」と「Jリーグのチームを倒す」という二つの夢を粉碎したのが早大である。去年2冠の駒大、その駒大に2つの土をつけた早大の火一番が早くも開幕して2試合目に火花を散らした。コンディションは最悪だった。横殴りに降りしきる豪雨、凸凹した入りツブいなピッチ状況、こんな状況下の中、両チームはピッチ上で合間見えた。試合が動いたのが開始8分、早大のFK。キッカー兵藤の右足が放ったキックは綺麗な放物線を描きながらポストに直撃し、そのままゴールマウスに吸い込まれた。去年の天皇杯予選、0-2で敗れたこの試合の先制点もほぼ同じ位置のFKからだ。思いつく悪夢を拭い去った。10分、CKのこぼれ球を塚本がクロス。「ゴールが見えていたので冷静に打った」と淡々と語った善がヘディングをゴールに沈め同点に。だがその後、両チームとも攻め手を欠き失速。得点後は主導権を握った駒大だったが後半になり攻めのリズムが掴めない。試合終了の笛が鳴った瞬間、選手たちは肩を落とした。